

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：病理細胞検査研究班 提出日：2019年12月26日 報告者：杉浦 記弘、森 三希子

行事種別	研究会	行事番号	190023252	
開催日	2019年12月21日(土)			
時間	開始	15時00分	終了	17時00分
場所	リップルスクエア (所在地 名古屋市東区)			
テーマ	ゲノム診療用病理組織検体の取扱いと精度管理			
生涯教育履修点数	専門教科 20点			
司会	JA愛知厚生連 安城更生病院	杉浦 記弘		
	JA愛知厚生連 渥美病院	森 三希子		
講師	アストラゼネカ株式会社	畑中 聖哉		
	愛知県がんセンター	吉野 聡		
	名古屋第二赤十字病院	岩田 英紘		
内容	<p>講演1 「EGFR 遺伝子変異陽性 NSCLC の治療と検査」畑中 肺癌治療の歴史と肺癌分子標的治療薬および EGFR 遺伝子変異の検査法について、最新の情報を交えて話された。</p> <p>講演2 「ゲノム検査に向けた組織固定」吉野 ゲノム検査に適した検体処理について、固定方法に着目して解説していただいた。推奨固定時間である 48 時間を遵守するための様々な工夫や実際の運用方法、また週末や長期休暇の対応などを具体的に提示していただいた。</p> <p>講演3 「ゲノム医療を見据えた病理組織検体の取扱い ～ DNA の質と影響～」岩田 臨床現場で悩まれている病理組織検体のホルマリン固定の影響について、DNA の品質の測定方法や、実際ホルマリン固定によって DNA の品質がどのようになっているか、ΔCt 値を用いてお話頂いた。今後様々な臨床現場でも生かされる講演であった。</p> <p>今回は遺伝子染色体検査研究班、病理細胞検査研究班と合同で研究会を開催した。「がんゲノム医療」が急速に進み始めていることもあり、89名という非常に多くの会員に参加頂いた。各講義に対し活発な質疑があり、有意義な研究会であった。</p>			
参加者	総数：89名(会員89名、県外会員0名、非会員0名、賛助会員0名、学生0名、その他0名)			
共催、後援など				